

被災地における新しい命への支援プロジェクト 2011－2012

I. 名称：東京ロータリークラブ・すくすくプロジェクト

II. 背景

3月11日に発生した東日本大震災により東北地方、特に津波の被災地は甚大な被害を受けた。その被害は、都市インフラのみならず教育、医療、就業、住宅、高齢者問題他社会に深刻な影響を与えている。その中で、他に隠れがちな問題として被災地における深刻な出産、子育て環境がある。

元々、津波の被災地は産科医療の限界地域と呼ばれていた。過疎、高齢化が進む中で産科の医師が少なく、それが一層地域の高齢化、過疎の原因となっていた。この限界地域が津波被害を受け相当数の産科医院が流失あるいは半壊、また産後の母子の支援を行う施設も大多数が機能を失っている。残念ながら被災地で子供を産み育てることは非常に難しく産後鬱の問題も顕在化してきている。

新しい命の誕生は短期的には復興の意欲を、中期的には消費を、長期的には復興の人材を育てる。20000人もの命が失われた今回の震災において、子供を産む母親、そして生まれてくる子供への支援を行うことは復興のための重要な課題であると同時に、ロータリー財団の重点目標である「母子の健康」に合致しロータリーらしい復興支援である。

東京ロータリークラブでは被災地における母子の支援を「チャレンジ 100 プロジェクト」として位置付け 100周年に向けての活動として積極的に行っていく。



Ⅲ. 東京ロータリークラブチャレンジ 100プロジェクト (略称：TRC100)

東京ロータリークラブでは 80 周年、90 周年と創立の節目ごとに 10 年計画のプロジェクトを計画し進めている。80 周年からの 10 年間は内戦の終結したカンボジアでの対人地雷除去活動を行「ロータリークリアランド」を作りあげてきた。2011-2012 年度は当クラブ創立 91 年目であり、本年を含め今後 10 年間同一のテーマで社会奉仕活動を行っていく。これが東京ロータリークラブチャレンジ 100 プロジェクトである。

Ⅳ. 2011-2012 年度の活動内容

1) プロジェクト内容

2011-2012 年度においては特に津波被害が深刻な陸前高田市を対象とし流失した「子育て支援センター」の建設を行う（都市計画が決まって施設が建設されるまでの仮設施設）

2) 陸前高田市の状況

陸前高田市は特に津波被害の深刻でありほぼ市街地全域が流出した。また地盤沈下がひどく現在でも水が引いていない。現在の市街地の写真は下記の通りであり、木造の家屋は全て流失しビルも屋上まで津波に襲われて廃墟となっている。



旧市街地（奥は私立病院の廃墟）



廃墟となった市役所

3) 母子支援施設の建設予定地

津波被害のあった旧市街地ではなく、高台となっている竹駒地区の児童公園に建設する



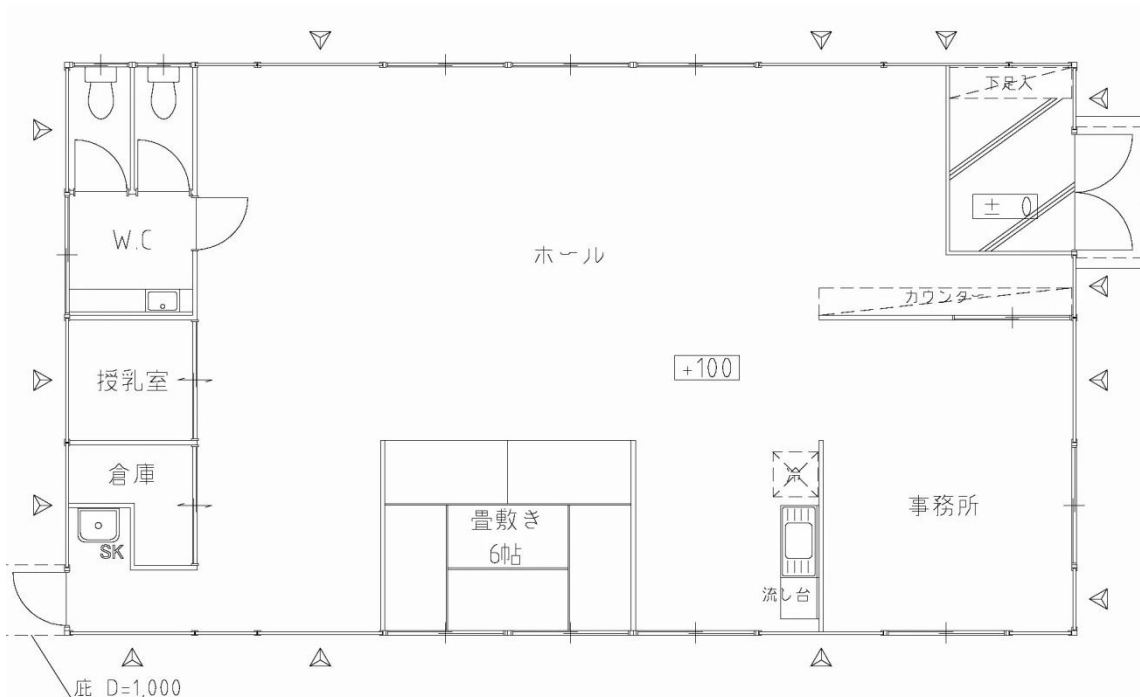
建設予定地（地図）



建設予定地（全景）

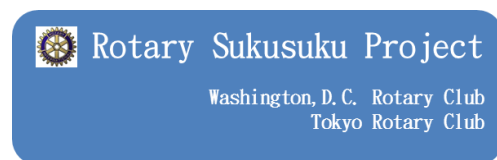
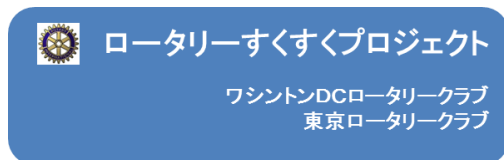
4) 建物の概要

上記建設地に約 8m×15m (120 m²) の施設を建設する。



5) ロータリー名の表示

完成した施設は「東京ロータリークラブ・すくすくプロジェクト」の名前で運営される。施設には下記（デザイン、色等は未定）のプレートを設置し協力いただいたクラブ名を表示する。



6) 施設の運営及び運用の年数

施設の運営は陸前高田市によって行われる。施設の運用は、陸前高田市の復興都市計画が決まり復興予算がついて本格的な子育て支援センターが建設されるまでの間であるが、施設の性格上予算の劣後扱いが予想され長期の運用となる（4～5年？） 施設運用終了後は解体されるが新施設に対しての運用支援を行うことにより新施設に上記プレートが表示される予定。

7) 必要資金 2100万円（内1100万円は東日本震災復興基金補助金より拠出される）

V. 2012-2013 年度以降の活動

東京ロータリーチャレンジ 100 プロジェクトの方針に従って来年度以降も被災地の母子への支援を継続する。被災地は下記のように広範囲に渡っている一方、其々の都市にはロータリークラブが存在しロータリー財団の重点目標「母子の健康」にも合致するため、海外クラブとのマッチング方式によるグローバル補助金の利用も視野に入れて進めていく。被災地ごとに状況が異なるため具体的な内容は地域により異なるが、地元のロータリークラブ、NPOとの協業による、運営面の支援となる予定である。

(イメージ)

